

国分寺市にふるさとをつくる会

287号 令和8年2月1日発行

特定非営利活動法人
国分寺市にふるさとをつくる会
理事長 大野 政智
〒185-0011 東京都国分寺市本多3-6-23
TEL: 080-5074-0367 Fax: 042-321-4357
E-mail: masatomoono@ra2.so-net.ne.jp

恋ヶ窪 むかしのこと

野川流域の崖に沿って旧石器時代から縄文中期の遺跡が数多く見られます。恋ヶ窪の地形は、野川が国分寺崖線を削って入り込んだ開析谷で、湧水が豊富で南向きの斜面なので、崖上に生活の拠点を設けるのには最適な場所でした。武蔵国分寺の当時の住職であった星野亮勝氏が、恋ヶ窪のローム層の中から旧石器時代の石器を発見しました。昭和22年のことでした。しかし、昭和24年に発見された群馬県の岩宿遺跡の発表が早かったため、新発見とはなりませんでした。日本にはそれまで旧石器時代の遺跡が発見されていなかったので、もし、早ければ、教科書に載るほどの大発見でした。

天平時代に武蔵国分寺が造営されます。武蔵国分寺の脇を、国府の府中から北に貫く東山道武蔵道が現在の姿見の池を横切るように通っていましたが、縄文以降の恋ヶ窪の様子を知る資料はほとんどありません。

鎌倉時代になると、現在の東福寺の前を鎌倉街道が南北に走っていたと伝えられており、交通の要衝でした。それなりの賑わいがあったと思われます。その時代の伝承として、畠山重忠と宿場の遊女夙妻太夫（あさづまたゆう）の悲恋の物語が有名です。ここでは、詳細な物語の紹介は省きますが、恋仲であった太夫が、重忠が戦死したとの偽りの知らせを受け、姿見の池に身を投げたという話です。恋ヶ窪の名前の由来ははっきりしませんが、国府に近い窪ということで「国府ヶ窪」と呼ばれたものが、この伝承によって「恋ヶ窪」になったという説があります。また、「鯉ヶ窪」であったという説もあります。恋ヶ窪の名前が、記録として現れるものとして、1486年道興准后が著した旅日記「廻国雑記」に「此の閑を越えすぎて恋ヶ窪といえるところにて『朽ち果てぬ名のみ残れる恋ヶ窪今はた訪ふも知記りならずや』」と詠んだ和歌があります。

恋ヶ窪の名前が史料にはっきり現れるのは、1649年頃の徳川幕府による「武蔵田園簿」と言う検地の記録からです。当時は、さびれた寒村でした。宿場があったという名残はなく、実際にあったかどうか怪しいものです。恋ヶ窪のことが書かれるようになるのは、江戸時代になってからで、色々な地誌や紀行文に紹介されます。恋ヶ窪という地名は人々に強い印象を与えたのかもしれません。江戸時代になると、武蔵野は、大消費地の江戸の近郊ということで、発展してゆきます。恋ヶ窪村は熊野神社の南側の本村に加え、現在の日立中研の北側の「サンヤ」と呼ばれる地域があり、さらにその北側に新田が開発されてゆきます。国分寺村や恋ヶ窪村の特産品として、炭がありました。江戸の生活を支えるためには、燃料の供給が必要だったので。「ヤマ」と呼ばれた後背地は、生活のための柴や薪を採取する場所でしたが、クヌギやコナラなどの樹木が植えられ、これらを定期的に伐採して炭の原料とする生産のための林に変わってゆきました。これが、現在の雑木林の姿の元になっているのです。

（大野 政智）

2月行事予定

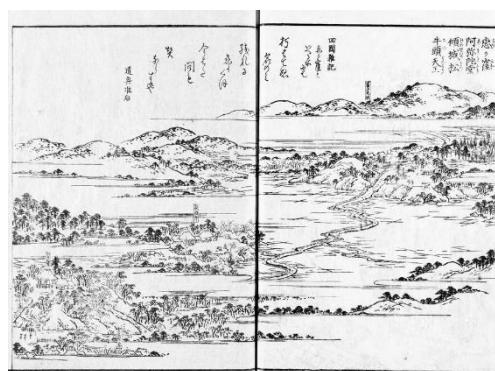
- 2日(月) 防災推進の街づくり仲間の会
井戸端会議 9:30 室内プール前
11日(水) 森の自然塾運営会議
9:30 恋ヶ窪公民館
12日(木) ふるさとの会合同幹部会議
14:00 恋ヶ窪公民館
15日(日) 森の自然塾 9:20 エックス山中央
15日(日) 防災推進の街づくり仲間の会
14:00 恋ヶ窪公民館
27日(金) 会報配布準備
13:30 恋ヶ窪公民館 (13:00印刷)
27日(金) 多摩に歩く会会議(会報配布準備
終了後) 14:15 恋ヶ窪公民館

ふるさとの会から お願い

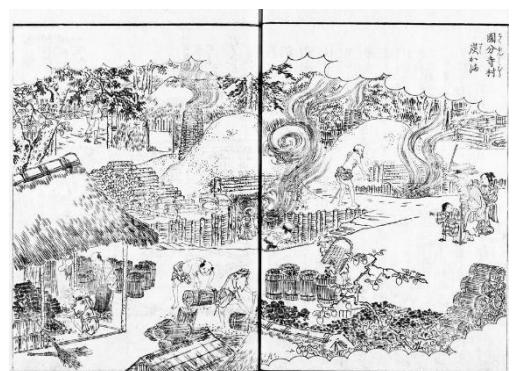
会報配布準備作業の手伝いのお願い

毎月の会報印刷と配布のための仕分け作業を恋ヶ窪公民館で行っています。最近は仕分け作業の人手が少なく困っています。公民館のお近くでお時間ある方のお手伝いをお願いします。13時から30分ほどの作業です。日時は上の行事予定を参照ください。

会報をメール受信に変更される方を募ります
各家庭に印刷の会報を配布する方々の負担を軽減するために、会報をメール受信に切り替えていただける方は、大野までメールにて連絡をお願いします。（アドレスは上に記載）



恋ヶ窪



国分寺村の炭窯

中央左やや下に東福寺、
右端やや上に熊野神社が見える

江戸名所図会より (江戸時代後期の風景)

1月 森の自然塾「植物の冬越し」&「森の素材でクラフト作り」

スタッフ 鈴木 知子

『植物の冬越し』について学習した後、いよいよクラフト作り。枯葉が敷き詰められたエックス山の森を歩いてきた子供たちは、机の上に準備されている緑の葉っぱや赤い木の実を見て驚いたと思う。

子供たちの目が輝いていた。これらを使って何を作ろうと考える子供たち。白いキャンバスの上に思い思いに葉っぱや木の実を置いていく。ボンドやグルーガンで、接着していく。

作業の最中に構想がひろがり、また、材料を探しに来る。同じ材料を使っても個性がでて、面白い。私は、材料を置いているテーブルで、子供たちの要望に応えて、葉っぱや実を探したり、必要な長さに切ったりしていた。「何を作っているの？うまくいって？」と声をかけると、嬉しそうに「うん」とこたえてくれた。時には、「見に来て」と声をかけられることもあった。

お子さんの要望に答えながらグルーガンで葉っぱや木の実を接着するのを手伝って下さった保護者の方々も、子供たちと一緒にになって、作品づくりを楽しんでいるように見えた。

毎回のことだが、子供たちの柔軟な発想力や創造力に感心する。また、会を重ねるごとに子供たちの成長を感じられて、本当にうれしい。



赤米栽培 この1年

赤米セミナーレ代表 大石 岳人

令和7年度の赤米セミナーレの活動は、4/18に定例総会、土作り、種まき、10/1に稻刈り、11/26にしめ縄作り、12/19に赤米食事会を行いました。今年度はバケツ14個で栽培。土には成蹊大学の馬糞堆肥を使用し、水やりを週に2~3回に増やしました。発芽も生長も良く、稲の背も高く育ち、沢山出穂しましたが、酷暑の影響か中身のない空穂が多く、収穫は玄米にして21gと、大変厳しい結果でした。

メンバーの自宅のバケツ稲や、他団体の市内の陸稲の収穫も同様に少なく、今後も高気温、雨不足等が続くと国分寺市内で赤米を育てるのは困難になるかもしれません。貴重な古代米の種をどうやって育て、繋いでいくのかが今後の課題です。少ないながらも収穫できた作物に感謝し、藁でお正月のしめ縄飾りを作ったり、白米に混ぜてお赤飯のようにしたおにぎりを食べたり、1年間頑張ってきたメンバーと共有する時間は、とても貴重なものでした。



立川防災館の研修会に参加して

防災推進の街づくり仲間の会 川崎 末利子

「防災推進の街づくり仲間の会」では、毎年立川防災館での研修会を企画しています。今回は14名の参加者があり初めての方も多く好評でした。特にAEDの操作など繰り返し体験することでとっさの出来事に対応できることを目指しています。

今回の研修は、最初に「消火体験コーナー」。皆さん自宅に消火器は備えてありますが殆ど的人が使ったことがないと思います。火事だ～！と大きな声で叫んでから「①安全ピンを抜く・②ホースの先を火元に向ける・③レバーを強く握る」消防の担当者の声に合わせて消火しました。意外と難しくとても良い体験でした。次に応急救護訓練室でAED操作を体験、これは毎年研修を受けていますが正しい使い方を指導いただきました。最後にVR（バーチャルリアリティ）による地震の模擬体験でしたが想像以上に破壊力が大きく、家具の固定など普段から備えておく必要があると思いました。次回も大勢の人が参加して体験していただきたいと思います。

終了後、近くにある「国立極地研究所」南極・北極科学館を見学しました。



環境保全に配慮し、
人に、社会に、地球に
優しい製品及び
サービスを提供します

リオン株式会社
<https://www.ion.co.jp/>

エックスやま
本社はX山に位置します

自然環境保護に賛同
賛助会員 TEL 042-321-5441
国分寺市日吉町4丁目13番2
中央システム技研(株)
代表取締役 川野 誠
(長野県下伊那郡出身)

会報をカラーで
ご覧いただけます



募集中

森の自然塾スタッフ
毎月第3日曜日 エックス山
1~3年生 子ども達対象
詳しくはホームページ参照